

樽前山の火山活動解説資料（平成 23 年 9 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山性地震がやや増加していますが、振幅はいずれも小さく、火山性微動は観測されていません。噴煙活動は概ね静穏に経過しており、地殻変動にも特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

A 火口、B 噴気孔群及び H 亀裂では高温の状態が続いていますので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要です。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴煙などの表面現象の状況（図 1-①～⑤、図 2～3）

A 火口の噴煙の高さは火口縁上 100m 以下で低調に経過しました。B 噴気孔群の噴気の高さは火口上 200m 以下でやや多い状態で経過しています。

30 日、B 噴気孔群が夜間に高感度カメラで明るく見える現象を観測しました。同様の現象は過去（2002 年、2003 年、2011 年 1～3 月、5 月及び 7～8 月）にも観測しています。なお、この現象発生時には一時的に噴気量の増加が認められました。

・ 地震及び微動の発生状況（図 1-⑥⑦、図 4）

今期間、火山性地震はやや多く発生しました。振幅はいずれも小さく、震源は概ね山頂火口原内の溶岩ドーム直下のごく浅い所に分布しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図 5～6）

GPS 連続観測では火山活動によると考えられる変動は認められませんでした。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 10 月分）は平成 23 年 11 月 9 日に発表する予定です。

※ 資料は気象庁のほか、北海道大学、独立行政法人産業技術総合研究所、地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。また、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平 20 業使、第 647 号）。

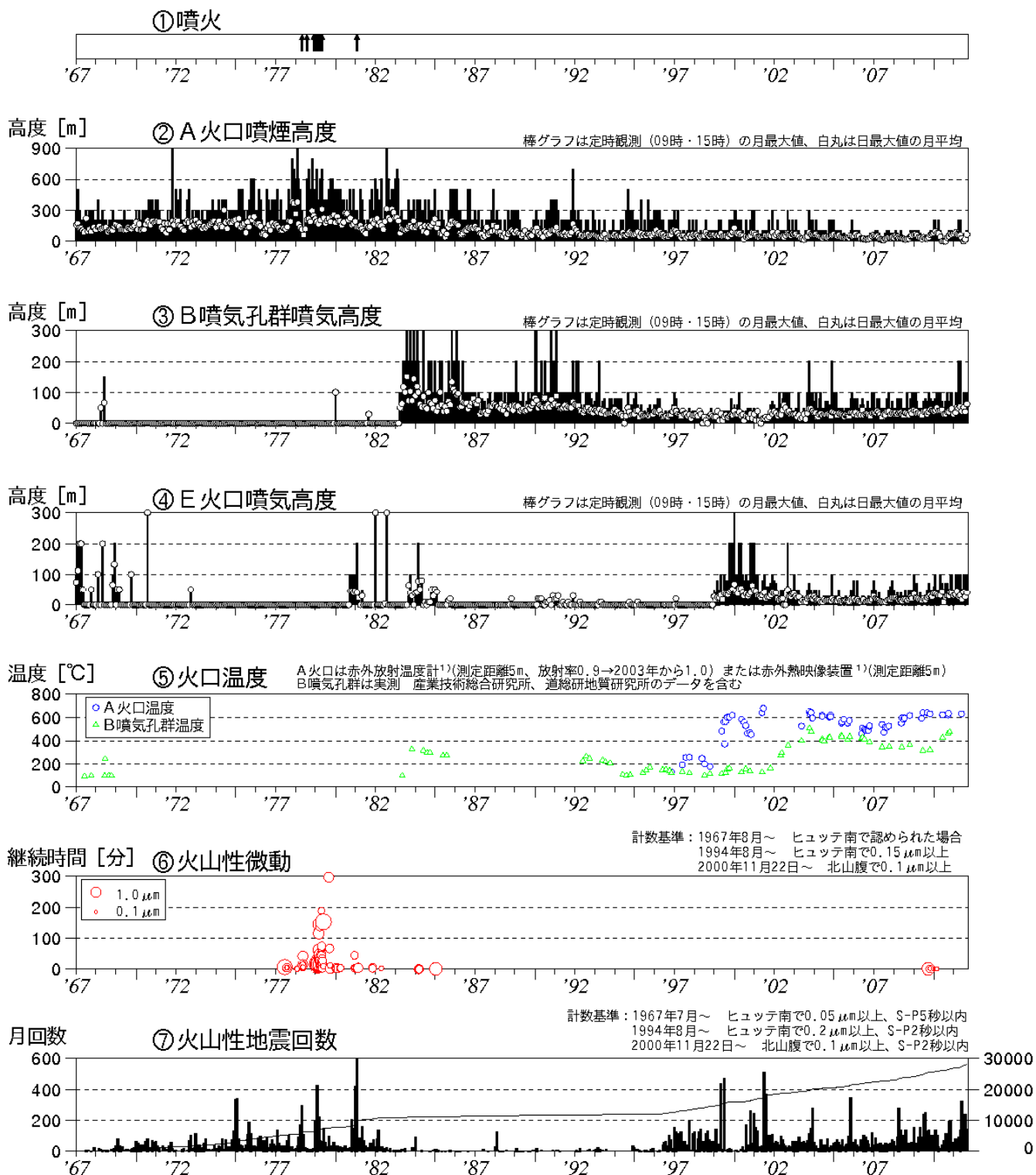


図 1 ※ 樽前山 火山活動経過図 (1967 年 1 月～2011 年 9 月)

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図2 樽前山 B噴気孔群が高感度カメラで明るく見える現象の状況
上：9月30日、下左：7月25日、下右：7月26日
別々川遠望カメラ（山頂溶岩ドームから南南東11.5km）による。

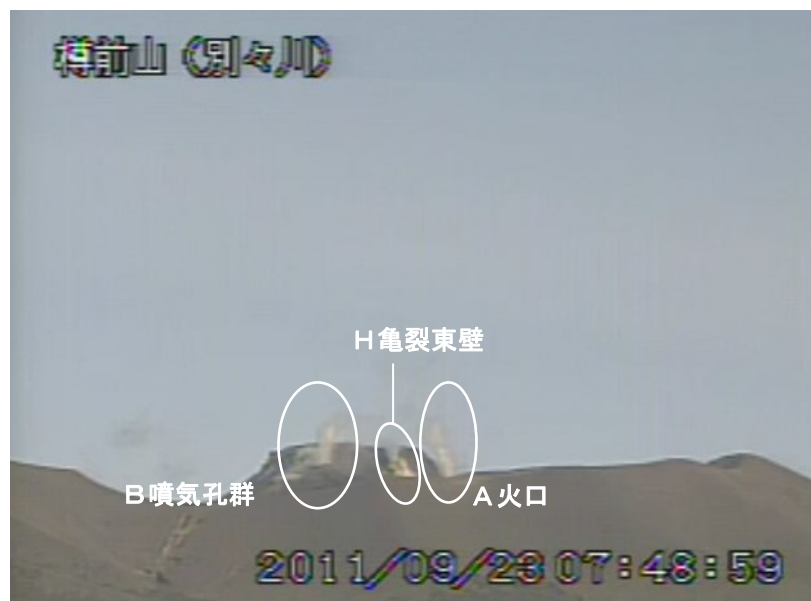


図3 樽前山 山頂溶岩ドーム付近の状況（9月23日、別々川遠望カメラによる）
白丸内はA火口、B噴気孔群、H亀裂東壁の噴気

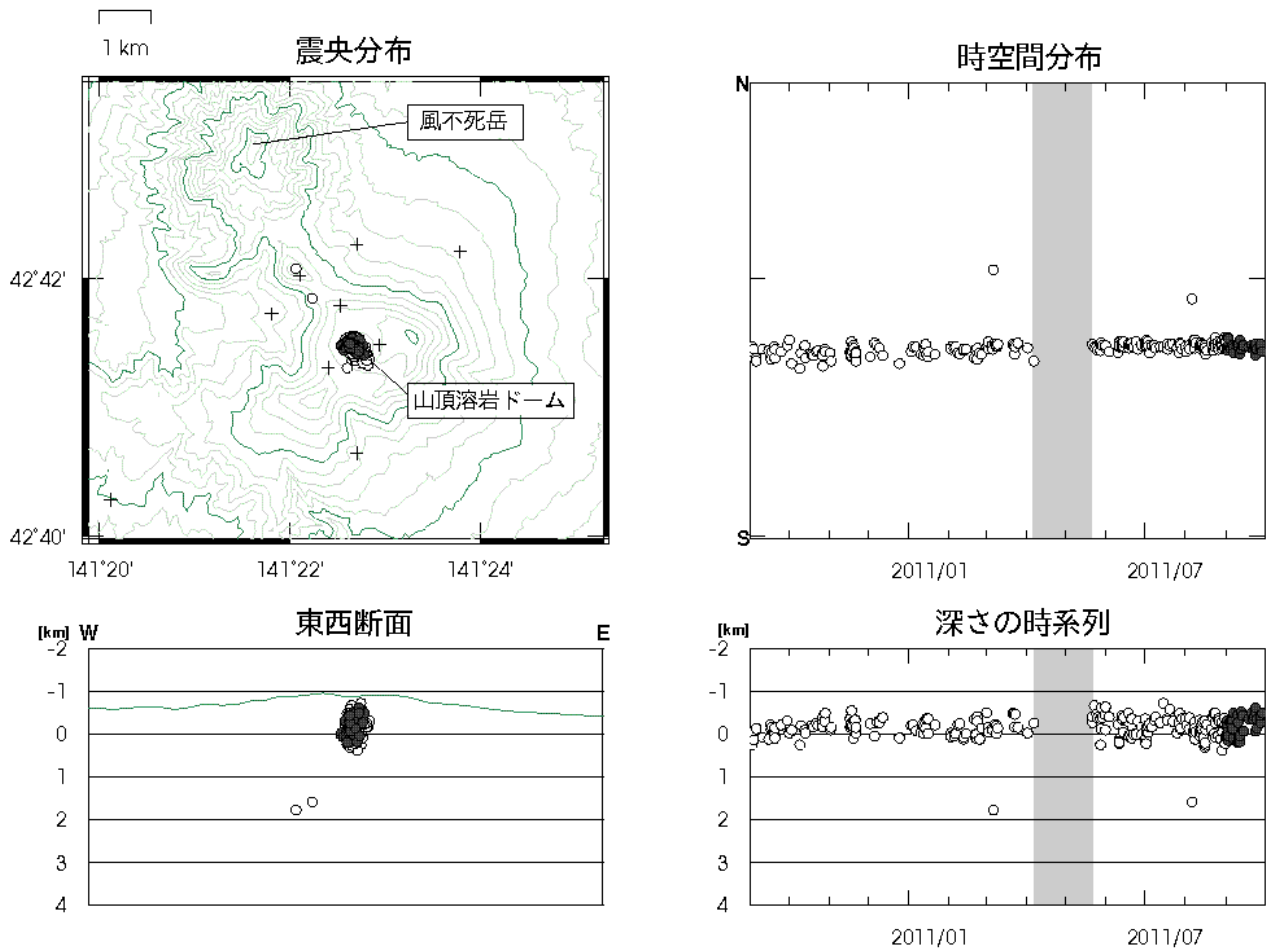


図 4※ 樽前山 火山性地震の震源分布 (2010 年 9 月～2011 年 9 月)

表示期間中、灰色の期間は一部観測点欠測のため震源の決定数減少や精度低下が見られます

○印：2010 年 9 月～2011 年 8 月の震源

●印：2011 年 9 月の震源

+印：地震観測点

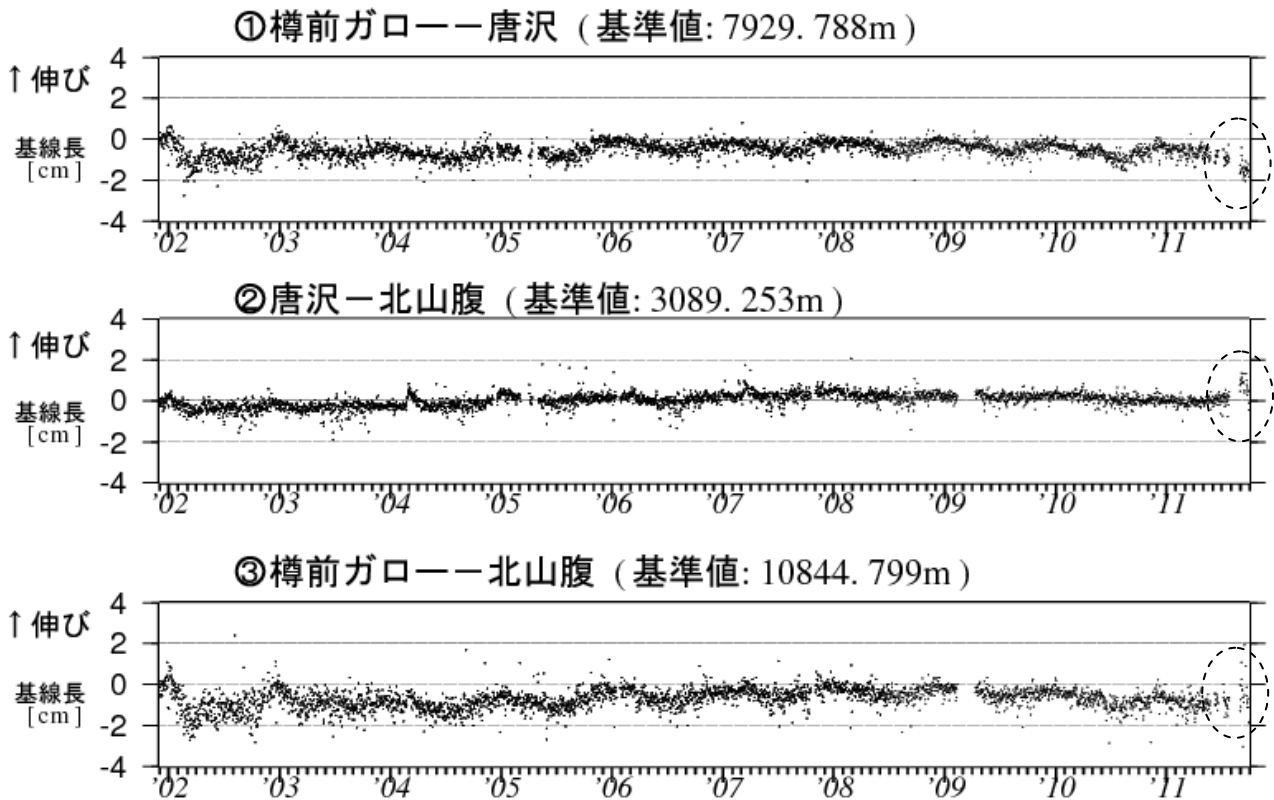


図5 樽前山 GPS 連続観測による基線長変化 (2001 年 12 月～2011 年 9 月)
 グラフの空白部分は欠測
 破線楕円内の変動は観測機器更新 (2011 年 8 月 1～30 日) による。
 GPS 基線①～③は、図6の①～③に対応しています。

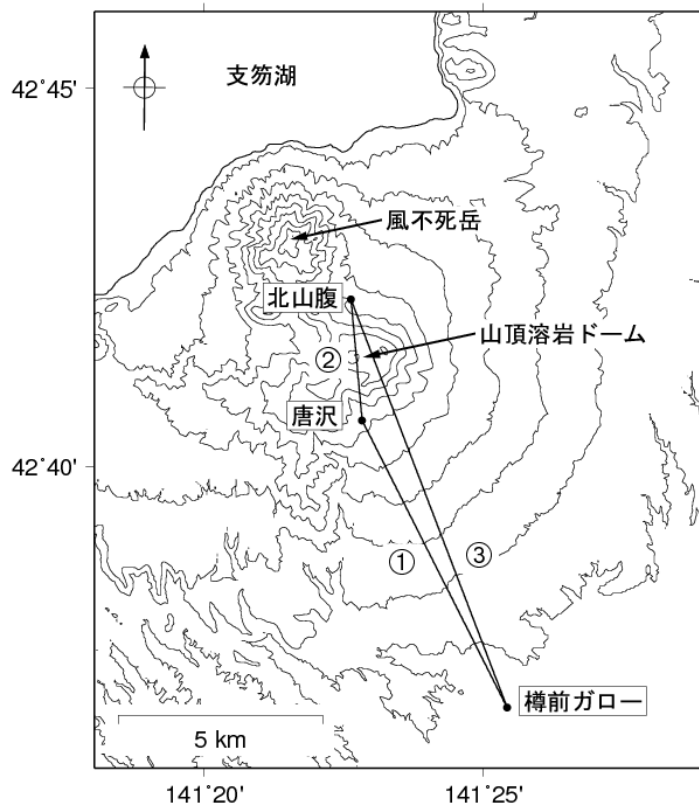


図6 樽前山 GPS 観測点配置図

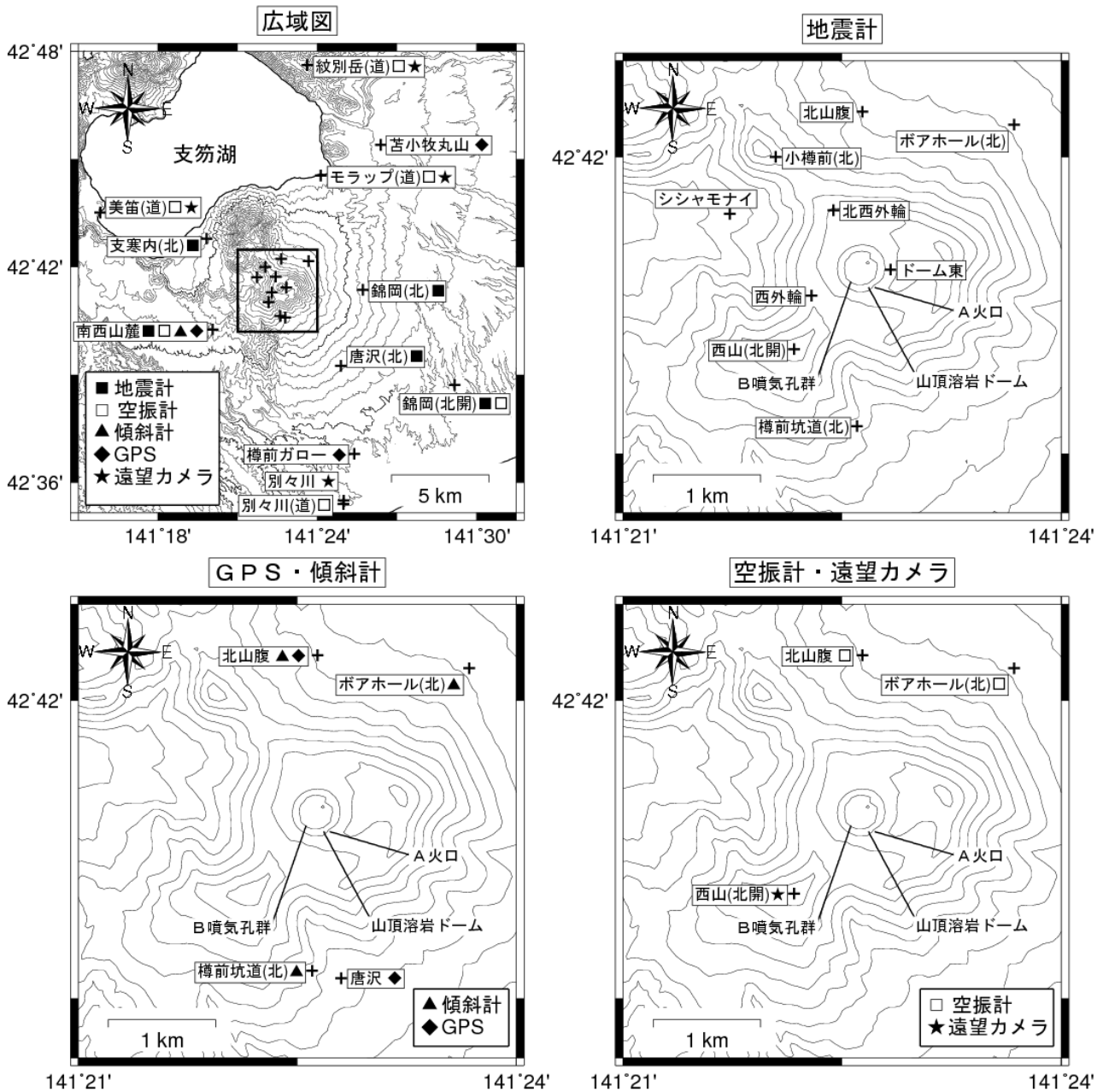


図 7 樽前山 観測点配置図

十は観測点の位置を示す
 他機関の観測点には以下の記号を付している
 (北) : 北海道大学
 (北開) : 北海道開発局
 (道) : 北海道